

「里の秋」の解釈について

1. 「二木紘三のうた物語」から抜粋

http://duarbo.air-nifty.com/songs/2007/07/post_36eb.html

作詞: 斎藤信夫、作曲: 海沼 実、唄: 川田正子

- 1 静かな静かな 里の秋
お背戸(せど)^{*}に木の實の 落ちる夜は
ああ母さんと ただ二人
栗の實煮てます いろりばた
- 2 明るい明るい 星の空
鳴き鳴き夜鴉(よがも)の 渡る夜は
ああ父さんの あの笑顔
栗の實食べては 思い出す
- 3 さよならさよなら 椰子(やし)の島
お舟にゆられて 帰られる
ああ父さんよ 御無事でと
今夜も母さんと 祈ります

昭和 20 年敗戦とともに南方や大陸各地から軍人・軍属、民間人たちが続々と日本に引き揚げてきました。彼らは、多かれ少なかれ体か心に傷を負っていました。同年暮れ、NHK はそうした復員兵や引揚者たちを励ます特別ラジオ番組を企画し、その中で流す歌の製作を作曲家海沼実に依頼しました。放送日は 12 月 24 日と決められました。

海沼のもとに曲の依頼があったのが、そのわずか 1 週間前でした。海沼が古い童謡雑誌を調べ、目にとまったのが、斎藤信夫作『星月夜』という童謡でした。『星月夜』をみた海沼は、この詩でいけると直感しました。しかしそのままでは使えません。というのは、1 番と 2 番は、母子が栗の實を煮ながら出征中の父親を思いやる内容でしたが、3 番と 4 番は、軍国主義的な内容になっていたからです。海沼は斎藤に修正を依頼しましたが、詩のテーマの根本的な変更なので、なかなか筆が進まず、とうとう放送当日になってしまいました。

斎藤は、あわてて 3 番だけ書いて NHK に駆けつけ、童謡歌手の川田正子を連れて待ち構えていた海沼に渡しました。

題名は、海沼の注文で『里の秋』に変えられました。

『里の秋』は、南方にいる父親を母と子が待ちわびるという歌です。

『里の秋』に対する反響は驚くべきものでした。正子が歌い終わると、「スタジオ内はシーンと静まり返り、その場にいた全員が心が浄化されるのを感じた」と、放送に立ち会ったあるスタッフは語っています。放送が終わったとたん、局内の電話がいっせいに鳴りだし、翌日以降も、電話による問い合わせや感想の手紙が殺到しました。

一つの歌にこれほどの反響があったのは、NHK でも初めてのことだったといえます。

※ 1 番の背戸は、家の裏口・勝手口、または裏庭のことです。